



2017年3月28日

各位

会社名 アステラス製薬株式会社  
代表者 代表取締役社長 CEO 畑中 好彦  
コード番号 4503  
(URL <http://www.astellas.com/jp>)  
東証 (第一部)  
決算期 3月  
問い合わせ先 広報部長 臼井 政明  
Tel: (03)3244-3201

## 日本における長期収載品 16 製品の譲渡に関する契約を締結

アステラス製薬株式会社(本社:東京、以下「アステラス製薬」)は、LTL ファーマ株式会社(本社:東京、以下「LTL ファーマ」)との間で、現在、アステラス製薬が日本において製造販売している長期収載品 16 製品(以下「本譲渡対象製品」)について、国内の製造販売承認及び国内外第三者への原薬・バルク供給及びロイヤリティビジネス<sup>注)</sup>を LTL ファーマへ譲渡すること(以下「本資産譲渡」)に合意し、同社と資産譲渡契約(以下「本資産譲渡契約」)を締結しましたのでお知らせします。

<sup>注)</sup>本資産譲渡後、現在アステラス製薬子会社が海外において販売する製品については LTL ファーマから製品供給を受け、販売はアステラス製薬子会社が継続します。

LTL ファーマはユニゾン・キャピタル 4 号投資事業有限責任組合及び Unison Capital Partners IV(F)により設立された日本長期収載品機構株式会社(本社:東京)の子会社であり、長期収載品に特化した医薬品会社です。本資産譲渡完了後、引き続き製品を安定的に患者さんへお届けできるよう、両社は協力して製造販売承認を円滑かつ効率的に移管していきます。移管後の本譲渡対象製品に関わる情報の提供及び収集は LTL ファーマが行っていきます。

### 1. 本資産譲渡の概要

#### (1) 本資産譲渡の目的

アステラス製薬は、急速に変化する環境変化に柔軟に対応できる組織・仕組みを構築し、オペレーションの一層の質の向上と効率化に継続的に取り組んでおり、本資産譲渡はその一環として行うものです。本資産譲渡により、競争優位の源泉となる事業・製品へ資源を再配分することで持続的成長を図ります。

#### (2) 本資産譲渡の対価

201 億円

### (3) 本資産譲渡スケジュール

2017年3月28日：本資産譲渡契約の締結

2017年4月28日(予定)：本資産譲渡契約のクロージング

2017年4月29日以降に製造販売承認等の移管を行い、2020年4月までに完了予定

### (4) 本譲渡対象製品

販売名	剤形	薬効分類
ガスター®	注射液、錠、D錠、散	H2受容体拮抗剤
ナゼア®	注射液、OD錠	5HT <sub>3</sub> 受容体拮抗型制吐剤
セファメジン®α	筋注用、注射用、点滴用キット	合成セファロスポリン製剤
セフゾン®	カプセル、細粒小児用	経口用セフェム系製剤
ジョサマイシン	錠	マクロライド系抗生物質製剤
ジョサマイ®	シロップ、ドライシロップ	マクロライド系抗生物質製剤
サワシリン®	錠、カプセル、細粒	合成ペニシリン製剤
ヒポカ®	カプセル	持効性カルシウム拮抗剤
ローガン®	錠	血行動態改善型降圧剤
ニバジール®	錠	高血圧治療剤
ペルジピン®	錠、LAカプセル、散、注射液	カルシウム拮抗性降圧剤
エミレース®	錠	抗精神病剤
ロドピン®	錠、細粒	統合失調症治療剤
ソランタール®	錠	鎮痛・抗炎症剤
ノイロビタン®	配合錠	混合ビタミン剤
スポンゼル®	ゼラチン	止血用ゼラチンスポンジ

本譲渡対象製品の売上高合計：290億円（原薬・バルク・ロイヤリティ含む、2016年3月期 仕切価ベース）

## 2. 譲受会社の概要

名称：LTLファーマ株式会社  
所在地：東京都  
代表者：代表取締役会長 岡 三生、代表取締役社長 水川 二郎  
事業内容：長期収載品の製造・販売  
大株主及び持株比率：日本長期収載品機構株式会社(100%)

## 3. アドバイザー

本資産譲渡に関して、財務アドバイザーとしてJPモルガン証券株式会社を、また、法務アドバイザーとして伊藤 見富法律事務所/モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所(外国法共同事業事務所)を起用しています。

なお、本資産譲渡に伴うアステラス製薬の通期(2017年3月期)連結業績への影響はありません。

以上

#### 注意事項

このプレスリリースに記載されている開発品に関する安全性や有効性は、検証中のものであり立証されたものではありません。また当局からの承認や製品として使用できるようになることを保証するものではありません。なお、このプレスリリースに含まれている医薬品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

このプレスリリースに記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述およびその他の過去の事実ではない記述は、アステラスの業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知および未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。さまざまな要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i) 医薬品市場における事業環境の変化および関係法規制の改正、(ii) 為替レートの変動、(iii) 新製品発売の遅延、(iv) 新製品および既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v) 競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi) 第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。